特集

いつ起こるかわからない災害に備えて

9月1日の「防災の日」にちなみ、今月号の特集は、いつどこで起こるかわからない災害に備えるための防災について紹介します。

倶知安町で想定される災害

台風、豪雨、雪解けの洪水、暴風雪などから起こり得る災害

・風水害　・土砂災害　・地震災害
・雪害　・原子力災害　など

災害の発生が少ない地域でも油断は禁物！

日本は、地震や台風などの自然災害が発生しやすい国ではありますが、倶知安町で大きな災害はあまり記録されていません。

しかしながら、過去には災害が起きています。上の2枚の写真は、倶知安町の歴史の中で過去最大級といわれた豪雨災害時の写真です。

昭和56年8月の台風の豪雨で堤防が決壊し、尻別川など町内の河川が氾濫するなどの災害が引き起こされました。農地や道路が冠水し、複数の地域で計50戸以上の住宅が浸水した被害が発生しました。

また、当時の日本国有鉄道胆振線では、寒別・北岡間の線路が流失しました。復旧までは約2カ月を必要とし、長期間にわたって町民の生活に影響を与えました。

被害が大きかった災害を教訓に「防災の日」を設定

昭和35年、国では9月1日を「防災の日」と定めました。

「防災の日」は、災害により大きな被害を受けた『関東大震災』を教訓に、多くの国民が地震や台風、豪雪などの災害について認識を深めることを目的としています。

また、災害が起きた際に被害が軽減できるよう、事前に備えを行うなど防災意識を高めることも期待されています。

－関東大震災－

大正12年9月1日に神奈川県を震源に起きた地震。被害を受けた建物は約37万棟で、約10万5千人の死者や行方不明者が出るなど甚大な被害をもたらしました。

災害に備えて日々の準備が大切

町では、災害に備えられるよう「倶知安町防災ガイドマップ」を発行しています。

防災・災害に関する知識や町内の避難所、洪水浸水想定区域などを予想した町内のハザードマップなどを掲載しています。

全戸配布を行っているほか、
内容については、右の二次元コードから
町HPにて確認することもできます。

▲令和6年4月更新版
「倶知安町防災ガイドマップ」

防災や減災で被害を軽減して災害を乗り越える

防災は、いつ起こるかわからない災害に備えて事前に取り組む必要があります。防災活動に取り組むことで災害の被害を減らすことができます。

また、災害時には、家庭・地域・行政がそれぞれ取り組むことが必要不可欠で、それぞれの連携が災害を乗り越えるためのポイントとなります。

自助と共助の特徴
素早い対応ができるが、
量や規模に限界がある

公助の特徴
量や規模は大きいが、
対応に時間を要する

自　助

家庭の取り組み

自身や大切な人の命を守るため、自らが備える

- 家屋の耐震化や家具の固定
- 非常時の持ち出し品や備品などの準備
- 避難場所や避難経路の事前確認
- 災害情報の収集や早めの避難

共　助

地域の取り組み

地域や隣近所が支え、助け合う

- 町内会や地域での防災訓練
- 高齢者や障害者、乳幼児などの避難行動要支援者の支援
- 避難所の運営

公　助

行政の取り組み

状況を整理し、公的な支援を行う

- 日頃の防災活動
- 災害時の救援、救出、復旧活動
- 復興事業

↓

日々の活動が減災につながる

自 助

災害は突然やってくる！

今、自身がいる場所にあるもの、服装・持ち物だけが、自分の身を守り、生き残るために頼れるものになります。

今、災害が起きたら…？

1. **まずは自身の安全を確保する**
   「シェイクアウト訓練」などでとっさの行動をとれるようにしておく

2. **家族や身近な方の安否を確認する**
3. **避難をする**
   自宅に留まるか、避難所へ逃げる
4. **「食べる」、「寝る」、「排泄する」場所を確保する**
   特にトイレの確保が重要

↓

だからこそ、非常時の持ち出し品や備蓄を整え、訓練をしておくことが大切です

共 助

通信手段の確保が必要
- 携帯電話用のモバイルバッテリー
- 公衆電話用の小銭、テレフォンカード
- 近くにいる方に借りる

不足しているものがあれば
- 替えの衣服がない（衣）
- 食料が確保できない（食）
- 自宅が全壊してしまった（住）

→ **近くの方を頼りましょう**
反対に頼られることも…

↓

「お互いさま」のことであるため、普段からの近所同士の関係づくりは重要です。

顔を合わせたらあいさつをする、見かけたら声をかけるなどの交流が防災や身を守ることにつながります

やってみよう！ ＼楽しく防災訓練／

家キャンプ

自宅にあるものだけで１日を過ごしてみることで、足りない備蓄やあったら便利なもの、家庭でのルールをあらかじめ確認することができます。

注意事項や詳しい方法は、町 HP で確認してください。

■事前に準備するもの

飲み水（約 2L）、生活用水（約 2 ～ 4L）、食べ物、充電済みの携帯電話
※食中毒防止のため、家キャンプ実施中も食べ物は冷蔵庫で保存しましょう

■場面を想定してから始めてみましょう！

今回は、地震による停電を想定して、電気と上水道を使わず行ってみましょう

■タイムテーブルの例

開始	12 時	18 時		6 時	10 時	終了
1 日目				2 日目		
（準備）	昼食	夕食	就寝	朝食		（振り返り）

うまくできるようになったら、友だちや近所の方と共同で家キャンプにチャレンジしてみましょう！

特 集　いつ起こるかわからない災害に備えて

町の備えを知っておこう

公 助

■ LINE や Facebook でまちの情報を発信
友だちやアカウント登録することで、災害時にも正確な情報を確認することが可能です

町公式 LINE の友だち
登録はこちらから

■防災無線
緊急的な情報の伝達を行っています。希望があれば、戸別受信機の貸し出しも行っています

■自主防災訓練支援・小学校への出前講座
町内会の防災訓練の支援や「1 日防災教室」として防災に関する講話のほか、消火器の使用方法や煙の中での身の守り方を子どもたちに伝えます

■インフラストラクチャー施設の強化
非常用発電機にもなる電気自動車の導入など
（避難所で約 3 日分の電気を確保することが可能）

■避難所に必要な備品や水・食料の購入
段ボールベッド、パーテーション用の屋内テント、簡易トイレ、非常食などを備蓄しています

俱知安町総務課
危機管理室防災係
及川（おいかわ）　茂之（しげゆき）さん

知識を身に付け、経験を通して自身を守ることができる

災害が起きたとき、消防署や自衛隊はすぐに救出活動へ出動します。行政もすぐに動き出しますが、町民の生存確認や国・道からの物資支援のため、道路状況の確認などを行う必要があり、物資が皆さんのもとに届くまで３日から７日程度かかると言われています。

この日数は、皆さん自身の力でしのがなければならないため、事前の準備が大切です。

防災は、備蓄のほかにも災害の危険性を知っておくことも大切です。警報などが発せられたときに、自分の居場所や行動予定、移動手段などから幅広く情報収集し、あらゆる知見を活用して、自身の受ける被害や影響を予測することで、避難の準備や行動の判断を行うことができます。

日頃から備蓄など物の準備をすること、防災訓練に積極的に参加するなどして、行動力を高めることが大切になります。

◎「考えて、行動」することを心掛けること、周りの人と協力することが防災につながります

情報（事実や事象を確認）→ 分析 → 知見を活用 → 判断 → 準備 → 判断 → 行動